

巻頭特集 みよしの市民農園

# 農のあるくらし

温暖な気候と農業用水など、農作業環境に恵まれたみよし市。昭和40年代を最盛期に、農家数は減少の一途をたどっています。一方で趣味や健康維持、生きがいの創生など、充実した余暇としての「農」が注目されています。

ユニークな  
かかしも利用者の  
手作りです

現在2割程の  
空きがあります！  
見学歓迎です！

石坂にある農地を  
市民農園に整備中です。  
たくさんの人に利用して  
もらいたいです

たくさんの人に  
利用してもらうため、  
新農園を整備中です

profile

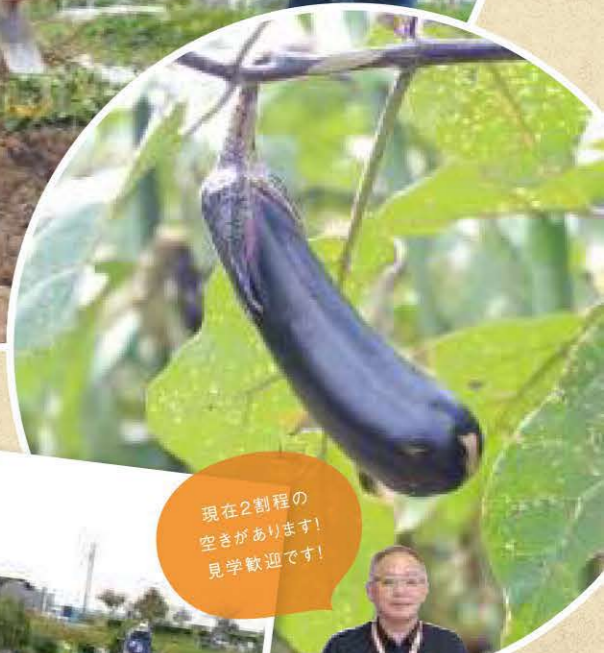
みよし市 環境経済部  
緑と花のセンター  
さんさんの郷 所長  
光岡 公利さん

2018年に着任し、センター全般の運営管理を担当する。自身も水田をもつ兼業農家。

information



さんさんの郷  
住所  
みよし市打越町三百目153  
電話  
0561-34-6111  
開館時間  
9:00～17:00 (ふれあい農園はのぞく)  
月曜休館  
貸し農園 (ふれあい農園)  
1区画 / 25㎡ / 年額 市内者 8,000円 / 市外者 10,000円



好立地を生かして  
「農」を身近に楽しむ

柿、梨、ぶどうを特産品としてブランド化を進めるみよし市。かつて農家数は千を超え、多くの田畑で生産活動が活発でしたが、工業の発展による都市化や後継者不足などで農業者は年々減少しています。一方で農家を継がず、会社勤めを選んだ世代が定年を迎え、交流の場や健康維持としての「農」が注目されるようになりました。

都市住民とのふれあいの場として、市民農園を開園したのが「みよし市緑と花のセンター・さんさんの郷」です。「平成7年の開園当初はキャンセル待ちが出るほどの盛況ぶりでした」と、現所長の光岡公利さんは振り返ります。現在は市内だけでなく、豊田市や名古屋市内からの利用もあります。

NPO法人みよし協働農園の会の理事長、加藤憲さんはサラリーマン退職後、実家の農業を継ぎました。農業委員の時に農家の高齢化や耕作放棄地、遊休農地の増加

市の食糧自給率の低さを知ったといえます。退職後に農業に携わることを希望していた長尾さんと出会い、2012年にNPO法人みよし協働農園の会を設立、2年後には念願の市民農園の会を開園しました。

「今は農業だけで生活していくには厳しい時代です。機械化が進んだとはいえ重労働で、長期休暇もままなりません。天候や市場価格の変動で収入が左右される不安定な職業です」と、光岡さんが農家の厳しい現状を伝えてくれました。耕作放棄地や遊休農地などの農業可能地を生かす活動が市で見直されています。

多世代が集う農園で  
多様性を学ぶ「共育」を

老夫婦がゆつたりと間引き作業をし、親が作業するかたわらで子どもたちが遊び戯れる。週末にはそんな利用者の姿がみられます。多世代が集い、交流する農園は地域共育の場でもあります。「さんさんの郷」は調理実習室や研修室、パーベキュー場が低価格で利用でき、週末にはパーベキューや屋外スポーツを楽しむ人たちがにぎわっています。晴れた日は中央アルプスが見られる、おすすめスポットです。

自給自足で体を作る  
本当に豊かな生活を知って

「農作業の魅力は？」の問いに、二人とも同様の答えをくれました。「自分で作った野菜を、収穫し食べる喜び。手塩にかけて育てた作物を収穫する喜びはひとしおです。家族で作った野菜を食べながら、出来栄えや来年の苗の話に花を咲かせる。その光景は「豊かな生活」そのものです。

コロナ禍で在宅時間が増え、家庭菜園やプランター菜園が人気を呼んでいます。多種類の作物を大きく育てることができる農園の魅力を知ってほしいと光岡さんと加藤さんは口を揃えます。「整った設備と経験豊富な指導員がいる貸し農園で、好きな野菜作りに挑戦してください」と光岡さん。「さんさんの郷」では「農業ふれあいコース」と「就農者育成コース」の農業研修「援農ネットみよし」事業を実施しています。目指すのは農業の活発化です。そのために子どもから高齢者まで親しめる「農」の魅力を発信し続けています。

profile

NPO法人みよし協働農園の会  
加藤 憲さん(左)  
長尾 邦松さん(右)  
2012年、共にNPO法人みよし協働農園の会を設立。

information



みよし協働農園の会  
住所  
みよし市打越町北屋敷53  
電話  
080-6903-5361 (加藤)  
URL  
http://miyoshinouen.jp/contents/business.html  
市民農園  
1区画 / 30㎡ / 年額 5,000円